さあ、世界へ！ さあ、未来へ！

主な国際的な取組

● 平成20年（2008年） 1月　**第１回錦帯橋国際シンポジウム**（岩国市主催）

ミシェル・コット氏（フランス）、エリック・デロニー氏（アメリカ）
錦帯橋の世界遺産となる可能性を確認した。

● 平成22年（2010年）11月　**第２回錦帯橋国際シンポジウム**（岩国市主催）

方拥（ほうよう）氏（中国）
中国に錦帯橋のルーツとなる橋が無いことを確認し、
世界唯一の価値を有する木橋であるという結論に達した。

● 平成31年（2019年） 3月　**錦帯橋世界遺産国際意見交換会**（本協議会主催）

ミシェル・コット氏（フランス）
錦帯橋のOUVと世界遺産登録に向けた課題等について
意見交換を行った。

● 令和5年（2023年） 9月　**ICOMOS GA2023 Scientif ic Symposium**

オーストラリア・シドニーで開催されたイコモス総会の
シンポジウムで、マルティネス・アレハンドロ氏（京都
工芸繊維大学助教）が錦帯橋に関する発表を行った。

錦帯橋世界遺産登録推進ＰＲキャラクター愛称決定！！

令和元年（2019年）に作成した錦帯橋世界遺産登録推進PRポスターに描かれている錦帯橋を擬人化したキャラクターの**愛称**が決まりました。

応募総数324件から選ばれたのは、岩国市内の小学生が、美しい錦帯橋が永遠に存在し続けてくれることを祈って考えてくれた「**美橋 とわ（みはし とわ）**」です。

「錦帯橋」と一緒に「**美橋 とわ**」も多くの方に親しまれる存在になってくれるとうれしいです。

錦帯橋世界文化遺産登録推進協議会 ホームページのご案内

ホームページでは、令和3年（2021年）12月19日に開催した錦帯橋世界遺産セミナー2021「錦帯橋におけるオーセンティシティ（真実性）」での講演が視聴可能です。

右の二次元バーコードからぜひご覧ください。

本シンポジウムの内容も後日、配信予定です。

錦帯橋世界遺産 国際シンポジウム

KINTAIKYO BRIDGE

国際的な視点からの錦帯橋のオーセンティシティ

開催日時　令和5年 **11月23日**（木 祝日）　13:30▶16:30

開催場所　岩国国際観光ホテル ロイヤルホール

錦帯橋世界文化遺産登録推進協議会　事務局
岩国市文化スポーツ振興部錦帯橋課世界遺産推進班
〒740-8585　山口県岩国市今津町一丁目14－51　TEL：0827-29-5107
E-mail：kintaikyo@city.iwakuni.lg.jp　https://kintaikyo-bridge.jp/

主催　錦帯橋世界文化遺産登録推進協議会（錦帯橋を世界文化遺産に推す会、一般社団法人岩国市観光協会、岩国商工会議所、錦帯橋世界文化遺産専門委員会、山口県、山口県教育委員会、岩国市、岩国市教育委員会）

後援　一般社団法人 日本イコモス国内委員会、岩国ユネスコ協会

プログラム

12:30 開場・受付

13:30 開会

13:45 特別講演

- ミケル・ランダ 氏
  『国際的な視点からの
  錦帯橋のオーセンティシティ』

14:45 パネルディスカッション

【コーディネーター】

- マルティネス・アレハンドロ 氏
  （京都工芸繊維大学　助教）

【パネリスト】

- アンヘル・カベサ 氏
- エレフテリア・ツァカニカ 氏
- ミケル・ランダ 氏
- 岡田 保良 氏
  （国士舘大学 名誉教授）
- 西 和彦 氏
  （文化庁 主任文化財調査官）

16:30 閉会

海外の専門家

アンヘル・カベサ 氏
（イコモス無形文化遺産国際委員会 副委員長）

Angel Cabeza

Vice-President, ICOMOS International Committee on Intangible Cultural Heritage /
Director of Heritage and City,
Municipality of Santiago de Chile

エレフテリア・ツァカニカ 氏
（イコモス国際木の委員会　エキスパートメンバー）

Eleftheria Tsakanika

Expert Member, ICOMOS International Wood Committee /
Associate Professor, Director of Building Materials Laboratory, School of Architecture,
National Technical University of Athens

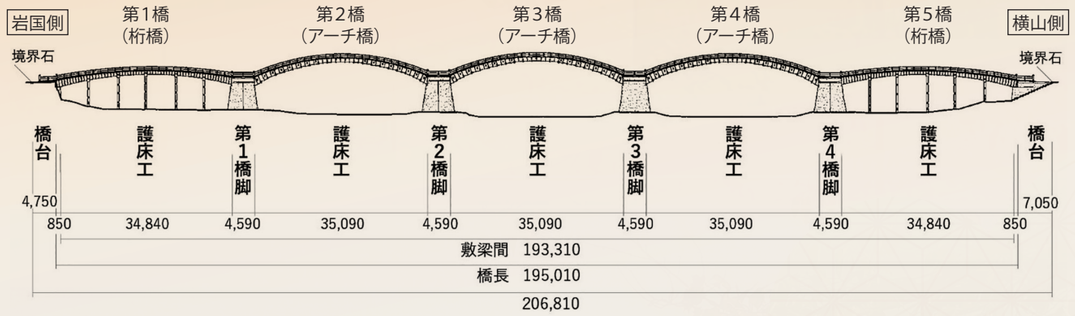
ミケル・ランダ 氏
（イコモス国際木の委員会　エキスパートメンバー）

Mikel Landa

Expert Member, ICOMOS International Wood Committee /
Past-President, ICOMOS Advisory Committee /
President, Landa-Ochandiano arquitectos

1673年の創建から350年を迎えた錦帯橋は、中央3つのアーチ橋、両端の桁橋を、石敷の護床工で保護する4基の橋脚、両岸の橋台に架けた5連橋です。

17世紀の日本において、約200mの広い川幅に、「流されない橋」を架橋するため、世界に例のないユニークな木造アーチ構造によって約35mの長いスパン（径間）を実現し、桁橋と組み合わせて5スパンの形式で完成させた傑作です。

錦帯橋は屋根のない木造橋のため風雨によって腐ったり、傷んだりしてしまいます。また、一体的な構造のため部分的な修理が困難な構造であることや人を渡し続けるという橋の機能を維持し続ける必要性などから、形式を踏襲して1スパンずつ更新する固有の架替システムが導かれ、この架替システムによって、架橋技術の伝承とともにその美しい姿と人を渡し続ける機能を受け継ぎ、岩国市のシンボル、アイデンティティとなっています。

錦帯橋世界文化遺産登録推進協議会では、この岩国の宝である錦帯橋を、人類共通の宝である世界遺産として未来に継承するために、国内外に対して推進活動を行っています。